



さいくうあと通信

発行 明和町 斎宮跡・文化観光課
 (明和町大字馬之上 945 番地)
 電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133
 E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

金剛坂から出土した土器が約1世紀ぶりに里帰りします!!

明治時代に金剛坂から出土し、東京帝室博物館（現在の東京国立博物館）に寄贈された壺が100年以上ぶりに明和町へ里帰りします！

この壺は金剛坂の榑谷由之助氏により発見されたもので、出土したのは現在の県道37号線（鳥羽松阪線）より南側の畑であったとされています。

壺の外面上半分には工具による幾何学的な紋様が付けられ、下半分は赤く彩色されており、非常に装飾性豊かです。こうした特徴がギリシアのクノッソス宮殿の土器にも劣らない優美なものであるとして「パレススタイル（宮廷様式）壺」と呼ばれています。このような特徴の土器は、弥生時代後期に濃尾平野を中心に伊勢湾沿岸の地域に見られるものです。

戦後の日本芸術を代表する一人である岡本太郎氏は、著書『日本の伝統』の中でこの壺などいくつかの弥生土器を紹介し、縄文土器と対比する形で「…整形された、幾何学的な均衡と、柔和な優美さである。そして、このあたりが今日考えられている日本の美、伝統のふるさとと思われる。…」と記述しています。

この壺が出土した金剛坂遺跡では三重県と明和町が何度も発掘調査を行っており、南勢地域を代表する弥生時代の遺跡として知られています。パレス壺は金剛坂遺跡が学術的に注目されるきっかけとなった重要な土器といえます。

今回、斎宮歴史博物館の夏季企画展の開催に合わせて期間限定で明和町に里帰りします。東京国立博物館へ寄贈されて以降、明和町に戻ってくるのは初めての事です。ぜひこの機会に明和町を代表する考古資料をご見学ください！



東京国立博物館 提供

斎宮歴史博物館 平成30年度夏季企画展
 明和町町制60周年関連企画

「斎宮のまわりにも魅力がいっぱい
 ー斎宮で自由研究②ー」

場所：斎宮歴史博物館

入館料：無料

期間：平成30年7月14日（土）～9月2日（日）
 （※ただし月曜日は休館）

☆エントランス企画「擬革紙を作ってみよう」

8月25日・26日、9月1日・2日 10:30～15:30

詳しくは、斎宮歴史博物館（52-7026）へ

お問合せください

ふるさと会館でも特別展を同時開催します！

特別展「遺跡から学ぶ明和の歴史」

場所：明和町ふるさと会館（図書館2階） 入館料：無料

期間：平成30年7月14日（土）～9月2日（日）（※ただし月曜日は休館）

展示解説：8月11日（土）10:00～11:00

ワークショップ「ミニチュア土器や土馬を作ろう」8月11日（土）13:30～

（※事前申込が必要です 小学生向け、一人350円）

見に来てね～



齋宮跡を通った歴史上の有名人

齋宮に関する記述がなされている史料はたくさんあります。史料から平清盛や西行法師といった歴史の教科書にも登場する有名人が齋宮を訪れていたことが知られています。今回ご紹介する伊能忠敬(1745-1818)もその一人で、今年は没後 200 年にあたります。

伊能忠敬は江戸時代に日本全国を測量してまわり、初めて実測による日本地図を完成させたことで有名です。実は文化 2～3 年(1805～1806)に行われた第 5 測量調査の際に、齋宮を通過したことが、忠敬が記した『測量日記』に記されています。



千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵

『測量日記』 該当部分

同二十日 朝六ツ半頃(昨夜小雨 此日曇天) 松坂町出立。 測量人同前。 海辺側人も同前。 此日微雨あり。 九ツ頃上野村へ着。(上野村は神領にて、則、本明星という) 止宿三田屋三郎兵衛。 此日くし田川、並葎川を長縄にて測る。 齋宮村地蔵院に有明の池というあり。 碑面に往古も今も不易て有明の池には月の影ぞ残れる。 宝暦七庚寅年不可得求心とあり。

同廿日 松坂町三測量人口お海辺側女口お
昨夜小雨 此日曇天
此日微雨 上野村に
此日くし田川 並葎川を長縄にて測る
齋宮村地蔵院に有明の池というあり
碑面に往古も今も不易て有明の池には月の影ぞ残れる
寶暦七庚寅年不可得求心とあり

伊能忠敬記念館 提供

『測量日記』には、文化 2 年(1805) 4 月 20 日の朝に松坂を出発し、櫛田川や葎川で測量を行い、上野の三田屋に宿泊したことや、中町の「有明の池」の石碑について、詳しく記されています。

石碑は宝永 7 年(1710)に地蔵院を中興した求心が建てたもので、現在も中町公民館の敷地内にあります。碑文と日記を比べると、忠敬が石碑の内容を克明に書き記したことがわかります。ただし、石碑に刻まれた年号は「宝永七庚寅年」で、忠敬が「宝暦」としたのは誤植と考えられます。

石碑は歴史上に残る大事業の途中に、伊能忠敬が齋宮を訪れたことを物語る重要な石造物です。



中町公民館に建つ現在の石碑

～石碑の銘文～
往古茂今毛不易天有
明乃池尔彼月乃影曾
残連留
～歌の読み～
いにしへも今もかはらで有明の
池には月の影ぞのこれる

<訂正とお詫び>

25 号裏面のコラム中の歌部分に誤りがありました。正しくは「おほよどのみそぎいくよになりぬらん 神さびにたる うらのひめ松」です。